

- 院内がん登録 2012（平成24）年診断症例概要報告
2009（平成21）年診断症例生存確認調査（予後調査）結果報告

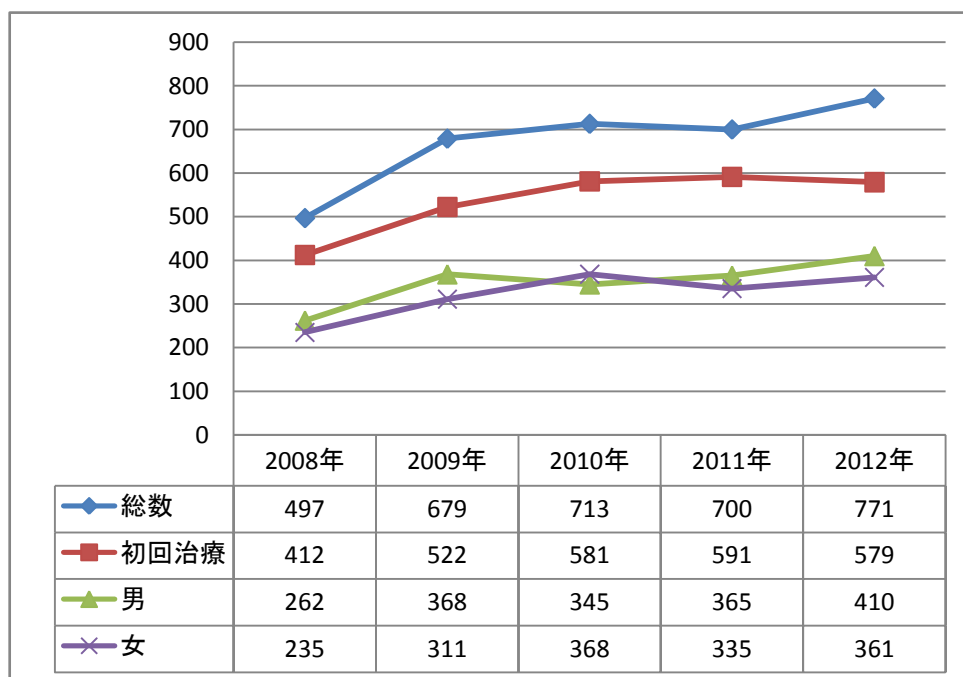
1. はじめに

当院は地域がん診療連携拠点病院として厚生労働省より指定を受けており、その指定要件の一つに「院内がん登録の体制整備」と「腫瘍データの国立がん研究センターがん対策情報センター（以下国がん）への提出」が求められている。

当院では2007年2月診断症例より院内がん登録を開始し現在に至る。過去5年間の登録数の推移は以下の通りとなっており、国がんが実施する全国調査と同様に増加傾向で推移している。

がん診療連携拠点病院の新指定要件では「院内がん登録数 500件以上」の項目が上げられているが、2009年診断症例以降、現在まで要件クリアの状態となっている。

図1. 当院の院内がん登録 登録数の推移(5年)



* 2013年診断症例は登録数約800件の見込（2014.07時点）

次項より2012年登録症例の概要ならびに2009年診断症例生存確認調査（予後調査）結果について報告する。

2. 2012年診断症例概要

- 対象期間：2012年1月1日～12月31日
- 登録件数：771
- 登録対象：入院・外来を問わず、上記期間中に自施設において当該腫瘍に対して初診、診断・治療の対象となったもの。「国際疾病分類 腫瘍学第3版（ICD-O-3）」における性状が上皮内癌もしくは悪性（原発）のもの（脳腫瘍に関しては原則的に良性も登録対象）
- 登録項目：「院内がん登録 標準登録様式 登録項目とその定義」 2006年度修正版による標準項目
留意事項

- ※1 院内がん登録の定義により、転移がんのため受診した場合も原発部位により登録を行う。
- ※2 登録開始日以降の当該腫瘍に対し、初診、診断・治療の対象となったものが登録対象であるため他の診療データの状況とは異なる。（登録開始日前からの自施設における継続治療症例、再発症例は登録対象から除外される）
- ※3 1腫瘍1登録（重複がんの場合それぞれの腫瘍が登録対象）

3. ICD-O-3 局在部位別

表1. 全部位

部位	男性	女性	計	割合
計	410	361	771	100.0%
口腔咽頭	13	-	17	2.2%
食道	28	-	32	4.2%
胃	52	29	81	10.5%
大腸（結腸・直腸）	59	51	110	14.3%
肝・肝内胆管	40	27	67	8.7%
胆のう・胆管	15	13	28	3.6%
膵	11	14	25	3.2%
喉頭	13	-	14	1.8%
肺	37	10	47	6.1%
皮膚	29	29	58	7.5%
乳房		84	84	10.9%
子宮頸部・体部		46	46	6.0%
卵巣		5	5	0.6%
前立腺	43		43	5.6%
膀胱	18	-	21	2.7%
腎・他の尿路	19	7	26	3.4%
脳・中枢神経	-	5	7	0.9%
白血病・悪性リンパ腫	18	18	36	4.7%
原発不明・その他	13	13	24	3.1%

* 部位別表示は国がんの報告書に準拠して表示した

* 個人情報保護の観点から、登録総数が男女あわせて4以下の症例は「原発不明・その他」へ合計を記載した。また、男女別で登録数が4以下のものについて-（マイナス）で、該当のないものは空欄表示とした

○2012年診断症例は771症例で、登録総数は前年より70症例程度増加した。

当院で診断と初回治療：579例

当院で診断のみ：67例

他院で初回治療開始後あるいは再発の症例：124例

○主要5部位ではほぼ50%を占めるが、とくに乳房が著しく増加した。受診理由は他施設での初回治療後の継続治療（放射線治療等）で約半数を占める。

表2. 部位別上位10（全体）

部位	件数
1 大腸（結腸・直腸）	110
2 乳房	84
3 胃	81
4 肝・肝内胆管	67
5 皮膚	58
6 気管支及び肺	47
7 子宮頸部・体部	46
8 前立腺	43
9 白血病・悪性リンパ腫	36
10 食道	32

表3. 部位別上位10（男性）

部位	件数
1 大腸（結腸・直腸）	59
2 胃	52
3 前立腺	43
4 肝・肝内胆管	40
5 気管支及び肺	37
6 皮膚	29
7 食道	28
8 腎・他の尿路	19
9 白血病・悪性リンパ腫	18
10 膀胱	18

表4. 部位別上位10（女性）

部位	件数
1 乳房	84
2 大腸（結腸・直腸）	51
3 子宮頸部・体部	46
4 胃	29
5 皮膚	29
6 肝・肝内胆管	27
7 白血病・悪性リンパ腫	18
8 膵	14
9 胆のう・胆管	13
10 気管支及び肺	10

3. 診断時住所別

図2. 都道府県別

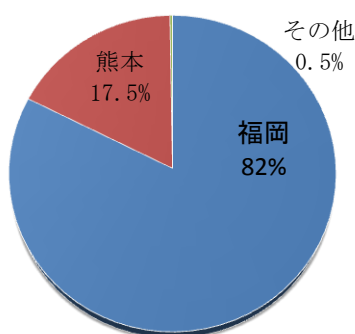
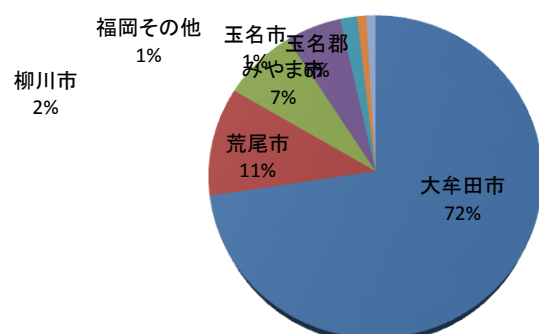


図3. 市町村別（福岡、熊本）



4. 患者属性別

図4. 年齢別

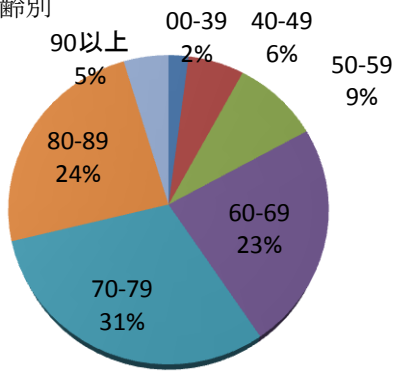
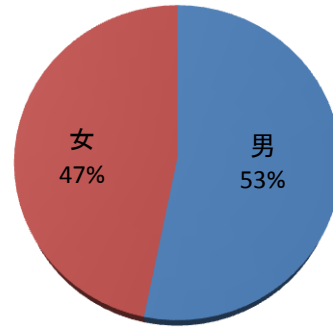


図5. 男女別



5. 来院経路と発見経緯

図6. 来院経路

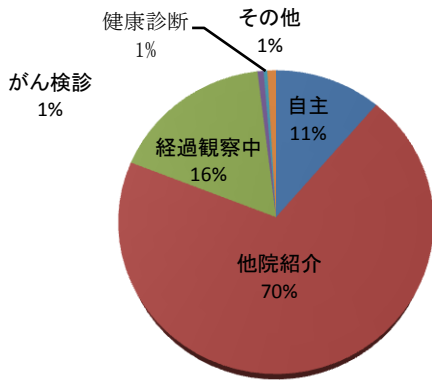
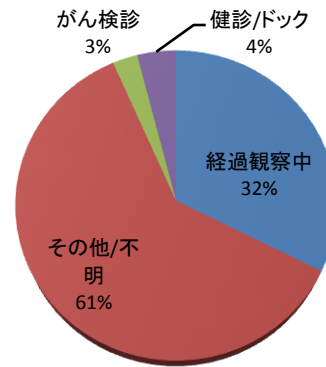


図7. 発見経緯



*その他・不明には自覚症状を含む

6. 主要5部位の病期（ステージ）と進展度

表5. 初回治療前（UICC 7版 肝のみ取扱い規約5版）

	0期	I期	II期	III期	IV期	不明・空欄
胃	—	40	5	10	12	—
大腸	—	11	27	26	13	13
肝	—	14	8	14	12	—
肺	—	5	—	7	5	—
乳房	—	17	12	—	—	—

※UICC TNM=国際対がん連合 TNM 悪性腫瘍の分類
取扱い規約=癌取扱い規約

UICCの定めるステージング方法に基づき、何らかの治療が行われる前につけられた病期を指す。わが国の通常臨床現場で使用される癌取扱い規約に基づくステージとは若干異なる。前医で治療がなされており、治療前のステージが不明な場合などは「不明」に分類されるか、空白のまま登録される。

表6. 病理学的（UICC）

	0期	I期	II期	III期	IV期	術前治療後	不明・空欄
胃	—	32	—	—	10	—	17
大腸	11	14	25	23	12	—	7
肝	—	—	—	—	—	—	45
肺	—	—	—	—	—	—	17
乳房	—	16	8	—	—	—	7

手術が行われた症例に関して、術後に検体が提出され病理学的に算出されるステージを登録する。

手術が行われなかった症例は空欄で、術前に化学療法や放射線治療等が行われた場合には「術前治療後」として登録され、通常の手術症例とは区別される。

当院での肝（肝細胞癌）に対する治療はTAE（肝動脈塞栓術）等、院内がん登録において「その他の治療」に分類されるもの選択が多いため、肺については放射線治療が主となるため病理学的病理で不明・空白に分類されるものが多い。

表7. 進展度（病理学的）

	上皮内	限局	所属リンパ節転移	隣接臓器浸潤	遠隔転移	術前治療後	不明・空欄
胃		34	—	—	10	—	17
大腸	11	35	18	9	12	—	7
肝		7					45
肺							17
乳房		22	—	—		—	6

全がん共通で作られた分類。経時的な集計・変化を観察する目的で地域がん登録用に特別に簡素化されたステージで、地域がん登録と院内がん登録において、がんの拡がり・進行の程度を表す共通の項目として使用される。

7. 2009年診断症例生存確認調査（予後調査）結果

以下は、住民票照会、地域がん登録予後情報照会実施後の判明状況である。（2014年1月時点）

○手順

- ① 来院情報、院内死亡情報、他施設等からの情報提供の有無確認
 - ② ①で確認できないものについて福岡県分については該当自治体へ住民票照会
 （福岡県と福岡県がん診療連携拠点病院協議会 院内がん登録専門部会との申し合わせにより定められた要領に沿って実施）
 熊本県分については地域がん登録室へ情報照会
- *収集した情報（住民票等）については個人情報保護に配慮し、適切に保管管理を行っている

表8. 判明率（転帰別、都道府県別）

	合計	福岡県	熊本県	その他
生存	51%	53%	42%	20%
死亡	45%	46%	44%	0%
不明	4%	1%	14%	80%
合計	100%	100%	100%	100%
判明率	96%	99%	86%	20%

図8. 判明分の情報源

